「臨床環境医学」投稿規定

編集方針

臨床環境医学「Japanese Journal of Clinical Ecology」は生活環境（住宅、食物、衣料、大気、水などを広く含む）に起因および影響される臨床疾患の予防、病態解明、診断および治療などに係わる基礎ならびに臨床医学的な研究論文ほか、健康影響を視野にいれた生活環境の解析や改善などに関連する建築工学、生命科学を含む幅広い学際的な研究に対する論文を受け付ける。

1．本誌は臨床環境医学に関する総説・原著・症例報告・短報などの範疇の論文を受け付ける。他の雑誌に投稿されておらず、またその予定のないものとする。

2．論文は会員による著述とする。原則として筆頭著者、対応責任者（Corresponding author）を含め全員が会員であること。筆頭著者は１名に限る。また対応責任者も１名に限る。両者を兼ねるのは差し支えない。

3．投稿論文の採否は編集委員会が決定する。

4．ヒトを対象とした研究などは、ヘルシンキ宣言およびこれに準拠した倫理規定に従い実施されていることが必須である。原則として所属施設の倫理委員会等の許可を得たこと、インフォームドコンセントが得られたことを論文中に記載する必要がある。動物を取り扱った研究においても施設内の動物実験に関連した委員会等の承認を得た旨を記載すること。

5．投稿論文に関して助成金を受けている場合は、その旨を記載すること。特に企業製品の評価に関する論文に関して助成金を受けている場合や、conflict of interest（COI: 利益相反）に関する事項があれば、必ずその旨を記載すること。なお、COI は無い場合にも、本文末尾に別項を設けて記載すること。

6．原稿は、ワードプロセッサーで A4 縦サイズとし、原則として電子媒体で編集室宛に E メール（後述）に添付して送付のこと。ファイル容量などの問題で E メール添付ができない場合などは、CD-R や USB メモリースティックなどの電子媒体に記録し、簡易書留便にて郵送すること。また事情により電子媒体による送付が困難な場合には、原本１部ならびに複写２部（図は原本を３部）を、簡易書留便にて郵送すること。

7．論文のスタイルについて以下の項に従って記載すること。

⑴ 投稿される電子媒体は、表題・抄録・本文・引用文献・図の説明を含む「テキスト」のファイル、「表」のファイル、図のファイルに分けること。それぞれ筆頭著者名と「テキスト」「表」「（パワーポイントであれば）図」「（JPEG か TIFF であれば）図と図の番号（例：図 1）」をファイル名とする。例：「大槻 本文」、「大槻 表」、「大槻 図（パワーポイントの場合）」「大槻 図３（JPEG 等の場合）」など。

⑵ 「テキスト」ファイルはワードプロセッサーで作成する。Microsoft word (Mac 版あるいは Windows 版) が推奨されるが、doc、rtf 形式、もしくは PDF ファイルであれば受け付ける。なお、初ページよりページ番号を附し、査読等の円滑化のために行番号も附されていることが望まれる（ソフトのヘルプ機能などを参照）。

⑶ 「テキスト」ファイルの第１ページには、和文による表題、著者、所属機関とその所在地、略題（30 字以内、running title 用）、和文キーワード（５語まで）、対応責任（別刷請求先）著者（氏名、所属、住所、電話、FAX 番号、E メールアドレス）、投稿希望範疇を記載のこと。複数の所属がある場合には、筆頭著者の所属先から順に１）、２）…と著者名最後に上付きで表示し、所属機関欄には、１）○□○大学△◇▽科□○□教室、２）…のように記載すること。

⑷ 第２ページには、英文による表題、著者、所属機関、対応責任者（Corresponding author）（氏名、所属住所、電話、FAX 番号、E メールアドレス）を記載のこと。複数の所属のある場合は、和文の記載法に準じること。

⑸ 第３ページには、和文抄録（400 字以内）、和文キーワード（５項目以内）を掲載すること。抄録は「背景」「方法」「結果」などの区分を行わずに記載すること。

⑹ 第４ページには、英文抄録（250 words 以内）、和文キーワードに相当する英文 key words（５項目以内）を掲載すること。区分を行わないことは和文と同様である。英文抄録に関しては著者の責任において、適切なネイティブチェックを受けた上で投稿すること。

⑺ 第５ページより本文を記載すること。行間は 1.5〜２行が望ましい。原則として本文は、原著論文の場合「緒

言」「材料（もしくは対象）と方法」「結果」「考察」に区分すること。症例報告では「緒言」「症例」「考察」に準拠すること。必要があればその後に「結語」「謝辞」を加えること。

⑻ 外国語の固有名詞（人名、地名など）は原語とするが、日本語として一般化している外国語はカタカナ表記でも良い。薬品名などは一般名を使用し、商品名は括弧内にいれて記載し、® を上付きで附す。また商標登録されている様なものも、名称の最後に TM を上付きで附すことが望ましい。

⑼ 数字は算用数字を用い３桁ごとに「,」を附ける（例：12,500 など）。ただし西暦などはこの限りではない。度量衡は CGS 単位を用いること。

⑽ 本本誌読者の専門領域は幅広いので、著者領域の専門用語であっても簡単な説明や略語についても留意すること。なお略語については、初出の場合にフルスペルを記した上で、略語を提示すること。和文抄録、英文抄録、本文のそれぞれでこれに従うこと。

⑾ 引用文献は論文に用いられたものだけを挙げ、引用番号は引用順による。引用箇所（文末の場合は句読点の前）に数字で表し上付き表示で、以下のように掲載する。その際に、複数著者の場合には、最初から 2 名を記載し、3 番目以降は和文の場合には「他」、英文の場合には「et al.」として略すこと。雑誌名は略称を使用し、欧文誌の場合には Pubmed (US National Library of Medicine, National Institutes of Health) の中の Journals in NCBI Databases に採用の略称を用いる、あるいはこれに準拠して用いること。雑誌略称の後の「. 」は不要。初頁、終頁の数字は略さないこと。以下に記載例を挙げるので参考とすること。

① 雑誌論文の場合

著者名．題名．雑誌名 巻：初頁 - 終頁、発行年

1）Aikawa H, Kinoue T, et al. Tokai High Avoider rat (THA rat) that maintains as inborn highlearning ability. Jpn J Clin Eco 12: 101-109, 2003

2）相川浩之、遠藤整、他 . THA ラット脳発育期に母体を介して低濃度ホルムアルデヒド曝露を受けた仔の行動への影響．臨床環境 12：32-41, 2003

② Epub の場合には、可能な限り doi（デジタルオブジェクト識別子：Digital Object Identifie）も記載する。

ⅰ．Epub ahead of print の場合

著者名．題名．雑誌名　Epub 掲載日付［Epub:］ doi

1）Kumagai-Takei N, Nishimura Y, et al. Effect of Asbestos Exposure on Differentiation of Cytotoxic T Lymphocytes in MLR of Human PBMCs. Am J Respir Cell Mol Biol [Epub: Mar. 1, 2013] doi:10.1165/rcmb.2012-0134OC

ⅱ．Epub のみの刊行物（論文によって、巻や頁の記載などが多種多様である可能性があり、その場合でも doi については必ず記載すること）

著者名．題名．雑誌名 巻：e 頁（付与されていれば）、発行年、Epub 掲載日付［Epub:］（可能であれば）．doi

1）Hu A, Yang Z, et al. Dynamics of autotrophic marine planktonic thaumarchaeota in the East china sea. PLoS One 8: e61087, 2013. [Epub: Apr. 2, 2013] doi:10.1371/journal.pone.0061087

2）Matsuzaki H, Maeda M, et al. Asbestos-induced cellular and molecular alteration of immunocompetent cells and their relationship with chronic inflammation and carcinogenesis. J Biomed Biotechnol 492608, 2012. doi:10.1155/2012/492608

3）Sun AL, Kido T, et al. The relationship between Agent Orange and prostate specific antigen: a comparison of a hotspot and a non-sprayed area in Vietnam. Environ Health Prev Med 2013. [Epub: Mar. 23, 2013], doi: 10.1007/s12199-013-0330-1

③ 単行本

ⅰ．単一著者による本の場合

著者．書名（２版以降は版番号）．出版社名、出版社の都市名、国名（日本の場合は不要）．発刊年．

１）Yoshihito Y：Cell membrane. Wiley-VCH Verlag、Weinheim、Germany．2003

２）佐々木和信：解剖学ワークブック．東京、中外医学社．2004

ⅱ．単一著者による本の章などの場合

著者．章などの題名． In．書名（2 版以降は版番号）．出版社名、出版社の都市名、国名（日本の場合は不要）．発刊年．pp 初頁－終頁．

１）Crosby DG. Inorganic toxicants. In. Environmental toxicology and chemistry. Oxford University Press, New York, U.S.A. 1998, pp205-225.

２）吉村昌雄．総有機塩素系農薬による健常日本人の汚染度．In．人体汚染－法医学からの検証－．金原出版、東京．1993, pp87-98.

ⅲ．単行本：編者のいる単行本の一部（章など）の引用の場合

著者：章などの題名．In. 編者（編者は 2 名以内の記載とし、それ以上は「他」あるいは「et al」で略す）（編）もしくは（ed あるいは eds）：書名（2 版以降は版番号）．出版社名、出版社 の都市名、国名（日本の場合は不要）．発刊年．pp 初頁－終頁.

１）Otsuki T, Takahashi K, et al. Establishment of negatively-charged indoor air conditionsand their biological effects. In. Nemecek J, Schulz P (eds). Buildings and the environment. Nova Science Publishers, Inc., New York、U.S.A. 2009, pp201-214.

２）坂部貢．治療と今後の課題をさぐる． In．井上雅雄、藤田清臣（編）．シックハウス対策の最新動向－環境設計・測定・治療－．エヌ・ティー・エス、東京．2005、pp324-328.

④ インターネット上に公開されている資料の場合

URL、アクセス確認日

１）http://www.mhlw.go.jp/houdou/2004/02/h0227-1.html（2011.5.9.）

⑿ 表は、「テキスト」や「図」とは別ファイルとする。上部に表のタイトルを付け、表の中の略語の説明や表自体の説明が必要な場合には、表下部に記載する。これら表のタイトル等と図の説明の言語は定めないが和文か英文に統一すること。エクセルやパワーポイントではなく、ワードプロセッサーで作成されることを推奨する。なお表については印刷所にて一定の様式に調整することがあるので留意されたい。表の説明を別ファイルに記載する必要はない。また、通常、学術雑誌掲載の表の場合、各セルの線による囲いや縦線は用いない。最低限の横線のみを使用することが多い。この点にも留意の上作成されたい。

⒀ 図の説明（含：タイトル）は、図の中に「テキスト」ファイルの引用文献の後に、改頁の上、記載すること。

⒁ 図や写真等は、パワーポイント、JPEG,TIFF 形式が望ましい。パワーポイントの場合、一つのスライドに一つの図を入れること。一つの図の中のパネル A、B などを別のスライドに分けずに投稿されたい。パワーポイントの場合には、スライド番号順に図１、２…と判断される。ファイル名は「図、著者名」で構わない。JPEG、TIFF などのファイルの場合には、解像度に留意すること。またファイル名に図番号を入れること（例「図１、著者名」など）。縦長と横長の図が混在する場合には、パワーポイントが別ファイルとなると考えられる。その場合には、図の順番が分かるように別途説明を附けること。

８．掲載された論文の著作権（copyright）、図表の版権は、日本臨床環境医学会に帰属する。著者が別論文で使用する場合には、編集部に連絡の上、別途論文には、「文献 OX を改変文献番号）」の様に記載し、本誌の論文を引用すること。

９．原稿ファイル等は掲載後原則として返却しない。

10．受理後であっても、和文論文の英語部分（タイトルや抄録など）について、明らかな文法上の誤りなどがあると編集部が判断した場合には、英文校正を行うが、その場合の費用は著者負担とする。編集部判断にて英文校正が行われた場合には、初回ゲラ校正時には、著者の意図と合うか特に注意して確認されたい。

11. 掲載料および別刷代金について。
⑴ 仕上がり頁数6頁以内は無料とし、超過した場合には、1頁につき15,000円を請求する。
⑵ カラー図版費（製版および印刷）：著者負担
⑶ 図版製作費（トレース・修正など）：実費
⑷ 著者校正は原則として1回行うが、その際大幅な修正が生じた場合、その費用を請求する。
⑸ 別刷代金：30部までは無料贈呈、それ以上は有料とし別途請求する。
12. 非営利団体（大学、研究所等）の情報リポジトリによる掲載論文の公開は、Eメールもしくは FAX による「臨床環境医学」編集部への請求と、それに対する編集部よりの許諾の連絡ののちに許可されるものとする。

連絡先
〒359-8513　所沢市並木3－2
防衛医科大学校衛生学公衆衛生学講座内
臨床環境医学　編集事務局
電話　04-2995-1563　FAX　04-2996-5195
Eメール　mtsunoda@ndmc.ac.jp
編集委員長　角田（つのだ）　正史（まさし）